野田 一成 さん

東日本国際大学1年／茨城県北茨城市出身

Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

すくのび広場の大清掃で、大型遊具の部品点検や撤去、再設置を手伝いました。屋内の広い遊び場をNPOの手作りで設置していること、どのように運営しているかを知り、初めての利用者に案内しました。また、小さい子どもと遊んだり工作を教えたりしました。他にも受付や保護者と話をするなど、今まで自分がしたことがない体験をいろいろさせていただきました。

Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

相手の立場をちゃんと考えて、話し方や接し方を工夫することが必要だと知ることができました。子どもたちは一人ひとり性格が大きく違っているので、一人ひとり違う接し方を学びました。また、お年寄りや幼児と話す場合は、目線を一緒にして話すことが大事だということなど、社会で覚えていく重要なものの一つを経験しました。インターンシップを重ねて場に慣れることができ、自分のパフォーマンスの幅も広がって、よりよい活動ができました。

今後は、学校などのグループワークの際に相手に合わせて話を進めたり、自分の考えをどうやって相手に伝えるかの場面などで活かしていこうと思いました。

鈴谷 知花子 さん

磐城高等学校1年／いわき市出身

Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

すくのび広場ではおもちゃの消毒や整頓、受付や事務処理をしました。また、子どもとふれ合ったり保護者とお話ししました。いわき緊急サポートセンターの病児保育では、障がいを持つ子どもと関わったり、日報をパソコンでタイピングしました。勿来公民館で開催した一日だけのサマースクールでは、小学生と一緒に工作や体験の感想文の発表をしました。

Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

子どもはとても多様多感でふれ合うのは難しいと思いましたが、それでも楽しかったです。一人ひとりの個性に合わせた対応が大切で、気分によっても対応が異なり慣れていないと難しかったです。逆に子どもたちの私に対する反応も多様であり、面白いと思いました。障がいを持つ子どもとの関わりでは、尊重することで生まれる信頼感が大切だということが分かり、難しさ以上に子どもの良さも感じられました。

子どもはあらゆる面で素直なため、多様さが実感できました。保護者も子どもの環境も多様であることを頭において、人と関わっていきたいです。尊重が信頼を生むことなど、全てにおいて同じだと思うので今後は意識したいと思いました。これから子どもと関わる時は、インターンシップで経験したことを活かして、一人ひとりに丁寧に向き合い、子どもの思いや考えを尊重したいと思います。障がいについては、まだ知らないことばかりですが、自分の対応が子どもに受け入れてもらえたことを励みに、もっと学び、知りたいと思いました。

吉田 菜月 さん

磐城高等学校1年／いわき市出身

Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

受付や閉館後の片付けなどの基本的な業務だけでなく、七夕飾りを一緒に作ったり遊んだりして交流を深めました。また、たくさんの子どもたちがふれるので、広場の掃除とおもちゃの消毒は特に力を入れて取り組みました。工作では一緒に楽しく作れるように、自分も楽しみながら教えました。

Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

気づいたことは2つあります。1つは、子どもたちは周りの人に支えられて大切に育てられているということです。そしてだからこそ私たちは親に感謝することを忘れないようにすべきだと思いました。2つめは、仕事には責任が伴うということです。“すくのび広場”でボランティアをしてみて、この環境は広場の運営に関わっている人々の責任ある仕事の上に成り立っていると感じました。私も有言実行を心がけていきたいと感じました。

今回の体験でたくさんの子どもたちと関わり、どれだけ大切に成長が見守られているのかを知ることができました。私もきっと大切に育てられてきたということが分かったので、これからは自分の健康に気を付けて、周りの人たちへの感謝の気持ちを忘れずに過ごしていきたいです。また、仕事には責任が伴うということも学んだので、自分の行動や発言に責任を持てるようにし、社会で活躍できる人材になれるよう、努力したいと思います。